

超音波エラストグラフィ検査で何が分かるの？

超音波エラストグラフィ検査では、超音波診断装置のプローブから発せられる音響放射圧により生じる剪断波が肝臓の中を伝搬する速度を測定します。肝線維化が進行し、硬い肝臓（＝肝硬変）ほど伝搬速度が速くなる性質があります。この性質を活かし、肝線維化診断の補助的評価に役立つ検査が超音波エラストグラフィ検査となります。

少し難しい話になってしまいましたが、簡単にまとめると肝臓の中を進む波の速さを測定して、肝臓の状態（肝線維化の評価）を推測することが出来る検査です。ここで「推測することが出来る」とした理由は、肝臓の中を進む波の速さが肝線維化の程度だけではなく、様々な要因（体格や測定条件）によって変化するためです。例えば食事摂取による肝臓内の血流の変化だけでもわずかに速くなってしまいます。



右写真：超音波診断装置のプローブ



超音波エラストグラフィ検査はどんなことをするの？

通常の腹部超音波検査とほぼ同じ方法で行います。痛みもなく、検査時間も大きく変わりません。先に述べたように食事摂取による影響を受けますので、検査前6時間以上は食事摂取をお控えください（水やお茶の摂取は可能です）。正確に測定するために、息を軽く止めていただきます。その都度検査者よりお声がけいたしますので、可能な範囲でご協力お願いします。ただし検査結果については担当医からの説明となります。

最後に…

当院の臨床検査技術科・病理検査技術科は2020年にISO15189（臨床検査室の品質を保証する国際規格国際規格）を取得しており、精度が担保された高品質の臨床検査を提供しています。

超音波検査について不明な点がありましたら、2階23番生理検査室にて私たち臨床検査技師に気軽にお尋ね下さい。

《著者紹介》



平賀 麻衣子（ひらが まいこ）
東海大学医学部付属病院
診療技術部 臨床検査技術科 生理検査室
臨床検査技師 超音波検査士

